

スピード感を持って 情報を共有する

埼玉代協

第14回通常総会を開催



会場のような



塩野会長

埼玉代協は5月19日、大宮ソニックスシティ(埼玉県さいたま市)で第14回通常総会を開催した。新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、会場参加者を最小限に抑え、ウェブでの配信を行った。当日は5つの議案を討議、いずれも全会一致で可決承認。役員改選では塩野会長が再選され2期目をスタートさせた。第2部では日本代協アドバイザーの栗山泰史氏が基調講演した。会員数355名、うち委任状を含め286名が出席した。

夢大きいほど実力発揮

ピンチの中にチャンスあり

開催に先立ち挨拶に立った塩野会長は、前例のないコロナ禍で手探りの

「多く、人口減少など以前からの協力を得て、コロナ禍で新たな脅威が顕在化した。塩野会長は

環境変化への柔軟な対応が事業の発展や顧客保護につながることを認識を示し、明確なビジョンを持つこと、夢が大きいほど大きな実力を発揮できること、ピンチの中にチャンスがあり「誰でもできることを誰もできないくらいやり続ける」ことが重要だと訴えた。その上で、「何をすべきなのか一緒に考えていきたい。代協という仲間がいるからこそ情報量は多い。質の向上を目指し、スピード感を持って情報を共有していきたい」と述べ、埼玉代協のさらなる発展のために協力を求めた。

約者保護や経済成長に寄与することを期待していること、このほか、オンラインも含めて来賓が総会の開催を祝した。総会では5つの議案(①2021年度 事業報告及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録等の会計報告及び監査報告承認の件、②2022年度 役員報酬(承認)承認の件、③役員任期満了に伴う改選に関する件、④2022年度 事業計画(承認)および収支予算(承認)の件、⑤本総会の決議の主旨に反しない限りその修正を会長に一任する件を討議。2021年度はウェブを活用した支部会やセミナーの開催は定着したものの、新型コロナウイルスの

誰でもできること、やり続ける

2022年度は375名を目標に引き続き会員増強に務める。

新役員の選出で再選された塩野会長は、金融庁の池田保険課長との意見交換会での内容に言及し、「手数料ポイントや乗合、合併等の課題を報告した。代協を通して少しずつだが改善されている」と報告。「代協は保険業界を良くするために存在している。引き続き会員増強に協力してほしい」と呼び掛けた。

第2部の基調講演は「歴史的な変化の中における代理店、保険業法改正、顧客本位の業務運営、デジタル革命」をテーマに栗山氏が講演した。

影響で大学への講師派遣や街頭キャンペーン等が中止となった。2022年度は状況を注視しながらイベント等のリアル開催をしていく方針を示した。議案は、全会一致で可決・承認された。2021年度3月末の会員数は代申会社別で、あいおいニッセイ同和65名、共栄火災7名、セコム1名、損保ジャパン114名、東京海上日動73名、日新火災13名、AIG10名、三井住友70名、チャップリン1名、楽天1名の合計355名、会員・理事・損保各社の協力を得て、2代理店が入会したものの、18代理店が退会